

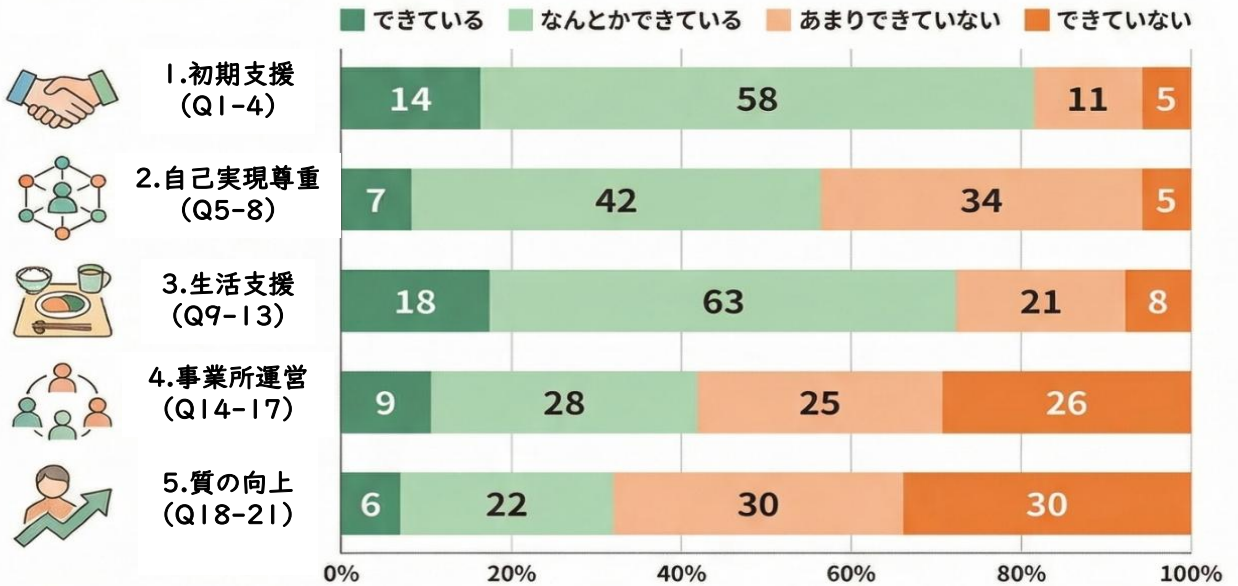
# リデル黒髪 職員自己評価アンケート結果報告 (R7年度)

R7年度、22名の職員による自己評価を行いました。全体的な傾向として、利用開始時の導入期対応や、食事・入浴などの基礎的な日常ケア、および体調変化の即時共有については一定の成果と自信が見られました。

一方で、利用者一人ひとりの具体的な目標（ニーズ）の把握や、地域社会との積極的な連携、およびリスクマネジメントの徹底については、多くの職員が不十分さを感じており、明確な課題が浮き彫りとなりました。



## カテゴリー別評価分布



初期支援・生活支援は「概ね良好」で、初期の受け入れ態勢や基礎的な介助に現場の安定感が見られます。一方、地域連携と人材育成には明確な改善の余地があり、外部との関わりやスキルアップ、リスク管理に重点的な対策が求められます。

### ✓ 強み

#### ✓ 新規入所者と基礎的なケアへの自信

新規入所者への気遣いや、食事・入浴・排便といった生活の基本を支える介助において、職員は一定の自信を持って取り組んでいます。



#### ✓ 変化への即時対応とチーム共有

利用者の体調や気持ちの変化を数感に察知し、即ちチーム内で共有・対応しようとする姿勢が現場に定着しています。



### ⚠ 課題

#### ⚠ 地域連携の希薄さと外部協働の必要性

地域の連絡会への参加や地域ニーズの運営危険が項目中で最も低く、施設が地域社会に開かれた施設となるための活動が必要です。



#### ⚠ 専門性の向上とリスク管理体制の整備

研修参加や資格取得、リスクマネジメントへの取り組みに不足を感じている職員が多く、教育体制の再構が必要です。



## 職員の決意 (自由記述より)

### “「個別のニーズに寄り添うケア」の実現

利用者の過去の暮らしや性格を深く理解し、一人ひとりの「～したい」に適した個別ケアを実現したいという向きの声が挙がりました。



### “「協力し合える職場づくり」への意欲

職員同士で意見を出し合い、支え合いながら、風通しの良い、より良い職場環境を共に作っていききたいという思いが見られました。

